

# 首都大学東京における海外留学促進の取組み

首都大学東京国際センター准教授 小柳 志津

KOYANAGI Shizu

首都大学東京国際センター特任助教 岡村 郁子

OKAMURA Ikuko

キーワード： 海外留学サポート、短期派遣プログラム、留学促進

## 1. はじめに

首都大学東京（以下、首都大）国際センターは、2009年4月に設立されたばかりの新しい組織である。前身である東京都立大学時代から、教員の海外とのつながりに頼る研究交流は多く行われていたものの、学生、特に学部生の海外派遣についてはほとんど年に数名というのが実情であった。G30(国際化拠点整備事業)をはじめとする他大学の国際化が急速に進む中、首都大はこの数年でようやく本腰を入れて国際化を進め始めたところであるため、まだまだ実績としては十分ではないことをご承知願いたい。現在、7つの学系を擁する首都大では学系独自の海外派遣プログラムも実施されているが、本稿では国際センターが主催するものを中心に述べる。したがって、ここで紹介するものの多くが国際センター設立後に企画からスタートし、数年でここまで成長してきたものばかりである。折しも、東京都が推進する高校生・大学生の海外留学支援策「かわいい子には旅をさせよプロジェクト」が始まり、海外派遣留学を担当する教職員の体制も整いつつあるところであり、いわば国際化の成長過程としての取組みを紹介できればと考える。

## 2. 海外派遣留学の概要

上述のような状況から、本学の喫緊の課題は半年・1年の派遣留学を増加させることである。国際センター設立前は、全学向けの学生交換協定先は2校しかなかったが、来年度には35校を超える見込みとなった。高等教育の世界的なmobility強化を追い風に、多様な国や地域で英語による科目受講が可能な大学が増え、学生の選択肢も大きく広がっている。

派遣先を強化する一方で、派遣留学を希望する学生、又は、派遣が可能な学生を養成することも同時に行わなければならない。派遣可能な枠数があっても、行きたい学生や行ける学生がなかなかいない、というのは大学で派遣留学を担当する者の共通の悩みであろう。首都大ではこの点を解消するために、以下の3つの側面を考えながら取組みを行っている。

まず一つ目に、研修等のプログラムを質・量ともに充実させることであり、交換留学以外にも短期・中期のプログラムを様々企画している。詳細は次項に述べるが、海外短期研修や学内での留学英語講座といった定番のプログラムをはじめ、通年で行うグローバル・シチズンシップ・プログラム（以下 GCP）やグローバル・リーダーシッ

プ・プログラム（以下 GLP）など、いくつか特徴あるものも実施している。こういったプログラムにより、学生が海外へ踏み出す一歩をサポートしている。

第二には、学生の意識面に訴えかけ、国際的な活動への興味を引き出すための工夫である。内向きの学生が増えていると言われているが、漠然と「海外に関係することをしたい」というイメージを持つ学生は多い。彼らに対してより具体的にグローバル社会で活動する人々の様子を知ってもらう「グローバルキャリア講座」は、外務省や文科省、JICA、商社マン、本学の国際的研究者、バイオリニスト、戦場カメラマン等々、多彩な分野の講師の方々にお話を頂いている。国際社会への参加意欲を高め、学生自らがロールモデルや自分の将来像を明確にできるよう心掛けている。

第三に、グローバル社会につながるための環境の整備である。学生達は一人ではなかなか行動に移せないものの、何かのきっかけがあるととても大きな力を発揮する。研修やプログラムを提供することもその一つであるが、日常的な場として国際交流ボランティアサークル HANDs を国際センターが主導して立ち上げた。4年経った現在では、学生達が中心となって留学生の日本語サポートやスポーツ大会、キャンプやインターナショナル・パーティなど活発な活動を行っている。国際社会が遠い存在ではないことを実感する場として機能し、受入留学生のサポートネットワークともなっている。

留学をより身近にするための環境整備としては、海外留学相談室や資料情報コーナーといった気軽に立ち寄れる場所を設けて情報を取れる機会を作った。また、経済的な環境整備として、東京都が支援する奨学金や JASSO が行う奨学金の獲得に努め、金銭的なハードルを少しでも下げられるよう奮闘している。

### 3. 短期派遣プログラム

ここで国際センターが企画実施する短期派遣について詳細を説明したい。主力の短期語学研修は、特徴の異なる内容で5つの大学にて実施し、今年度は計約50名が参加の予定である。夏期に行われるロンドン大学 SOAS での研修は、英語の学習というより英語で特定の課題を学習できるプログラムとなっており、英語力が高めの学生に適している。より幅広い語学レベルの学生を対象に、春期にはカナダのビクトリア大学とヨーク大学にて語学研修を実施し、治安や環境の良さで学生（及び保護者）の安心感を得ている。今年度は新たにマレーシアのマラヤ大学でも英語研修を開始できることとなり、費用面や文化的多様性の面で興味を持った学生から多くの応募があった。また、マレーシアでの研修には現地に事務所と工場を持つ日本企業の賛同を得て、語学研修の後にインターンシップを行うプランも設定した。このプログラムには将来グローバルなキャリアを目指す非常に意欲の高い学生達から応募があり、選考を通った7名が派遣される予定である。大学院生を対象とした米国ジョージタウン大学での研修は、学会発表ができる力をつけることが目標となっており、研究者を目指す学生達にとって重要な機会になっている。

これらは“短期”研修と称しているが、実質半年がかりのプログラムである。選考は派遣の約4カ月前に行われ、英語や異文化接触、危機管理についてなどの事前研修を数回に渡って組み込んでいる。また、現地調査に基づくレポートや自己観察、英語での事後発表会、報告書の作成を課しており、大学主催ならではの意義を持たせたプ

プログラムとして設計している。

次に、特色ある取組みとして GCP をご紹介したい。GCP はグローバル人材に必要とされる主体性や積極性の強化、異文化間能力やコミュニケーション力の養成を目標として、学部1, 2年生を対象に行っている。参加希望者から約15名を選考し、多彩な分野の教員によるオムニバス形式の国際活動力強化科目、グローバル英語講座、英語で行われる科目などを通年で受講し、加えて夏期には2泊程度の学外プロジェクトワーク、春期には豪州マッコーリー大学での約1ヵ月の研修を組み込んでいる。

もう一方の GLP では、同じく主体性や積極性を強化しながら、より実践的に国際社会で活動できる力を養うことを目的としている。学生自ら海外の交換協定校を訪問し、プレゼンテーションや交流会を行って日本や本学をアピールすることが目標である。こちらを選考を通った学部1~4年生約15名が1年を通して訪問先でのプロモーション活動を準備し、現地大学との交渉も教員の指導の下で学生達が行う。訪問できるか否かも含めて全てが自分達にかかっているため、学生も非常に真剣に取り組む、真のリーダーシップが必要となる。GLP の訪問は海外の交換協定校にとっても学生の興味の掘り起こしとなるため評価が高く、派遣受入の活性化にもつながっている。

これら国際センターが主催する研修やプログラムは、学内の所属を越えて海外への関心が高い学生が集まり、そういった仲間との交流が刺激となってモチベーションを更に上げる機会となっている。また、本学ではこの他にも半年又は1年の留学を義務付ける副専攻も計画されており、今後も様々なプログラムを検討している。

#### 4. 留学プログラム参加促進のための取組み

国際センターでは、首都大から世界へ飛び立つ学生の渡航前から帰国後まで、様々なきめ細かいサポートを行っている。以下にその一例を紹介する。

##### ① 学生への留学情報提供とアドバイジング

留学を希望する学生に対し、国際センター内に「海外留学相談室」を設け、週3日各5時間、センター教員が留学を希望する学生の相談に応じている。交換留学や短期研修の応募時には月40名近い学生が来室し、ここ2年間の協定大学の拡大を受けて利用者数は飛躍的に増加している。相談内容は7割程度が交換留学や短期研修に関するものであるが、インターンシップ、私費留学についての問い合わせも多く、これらの新規プログラムの開拓も急がれるところである。また相談室とは別に、協定校のパンフレットや留学情報誌、語学テスト対策本などを備えた「海外留学資料・情報コーナー」を設置し、学生自身が志望大学や留学全般について考えるための情報提供に供している。

さらに、海外留学を希望する学生を対象に、学内外の留学関連イベント等の情報等を周知するため、「海外留学情報メーリングリスト」を立ち上げた。1年半前の開設以来、現在300名以上の学生が登録しており、首都大生の留学への関心の高さが窺われる。国際センター主催イベントの周知は、メーリングリスト、学内掲示、HPやポータルサイトへの掲載等によって行っているが、アンケートによれば、イベント参加者の8割以上がこのメーリングリストにより情報を得たと答えており、学生への周知方法

として非常に効果が高いことがご理解頂けるであろう。

## ②「留学フェア」および「留学フォーラム」の開催

本学では協定大学の学年開始時期により、春・秋2回の交換派遣留学の募集を行っている。これに合わせて4月と10月に「留学フェア」を開催し、交換留学および短期研修の説明や、留学後のキャリアについてのガイダンスを実施し、各イベント100名近い参加者を得ている。さらにこの期間中に、「留学フォーラム」と題して、長・短期留学プログラムに参加した学生の留学報告や、協定校から首都大に留学中の交換留學生が出身校についてのプレゼンテーションを行う機会を設けている。発表の後には持ち寄りのお菓子を囲んで和やかな情報交換会が行われ、留学を希望する学生やこれから渡航する学生、留学を終えて大学に戻った学生と本学在籍中の外国人留學生の絶好の交流の場となっている。

## ③渡航前から留学中にわたるサポート

3にも述べた通り、交換留学・短期研修ともに徹底した渡航前研修を行うことも本学の特色であるといえよう。前期・後期年2回の「留学準備講座」では、国際センター教員による「アカデミックスキル講座」「異文化理解講座」「危機管理講座」に加え、キャリア支援課よりキャリアカウンセラーを講師に迎えての「留学を活かすキャリア講座」の4セッションにより、渡航前に身に付けておくべき知識や情報を幅広く提供している。主にセンター主催のプログラムや学系からの派遣留学に参加する学生が対象であるが、将来留学を考えている学生や私費留学を控えた学生など全学にオープンしており、今期は約80名の学生が参加し、各回好評を博している。このほか、短期研修では英語科目担当教員の協力により、現地授業のシミュレーションとなる英語講座も開設し、現地さながらの熱気溢れる講義が行われている。

このような渡航前研修の延長として、留学中には、自己の日々の変化を振り返り、記録することを全学生に課している。特に交換留学の場合は、1ヵ月に1回のレポートをセンター教員で共有することにより、学生が安全で健康な留學生を送っていることを確認する。心配な点や注意すべき点があれば各学生へプログラム担当教員からのフィードバックを行うことで、危機管理を兼ねた留学中のアドバイスも可能になっている。

## ④学内英語講座およびIELTS受験説明会の実施など

特に交換留学においては、協定大学の求める語学能力スコアや学内出願基準を満たすために、語学試験の受験が必須である。国際センターでは①～③に述べた「留学フェア」や渡航前研修、留学相談において語学試験受験に関する説明会やアドバイジングを行い、早期の語学スコア獲得を促している。また、学外の英語教育機関の協力を得て各種学内英語講座を開設し、総合的な英語力を伸ばすための講座やIELTS対策講座、英文レポート等の添削をするライティング個別講座など多様なクラス展開で学生の語学力向上をサポートしている。さらに学生の便宜を図るため昨年度よりIELTS試験の学内実施を始めるなど、より留学への出願がし易い体制を模索している。

### ⑤ 留学を活かしたキャリア支援

留学相談室を利用する学生からの相談で最も多いものの一つに、就職活動への不安が挙げられる。現在の2年生からは就活スケジュールが後ろ倒しとなり留学には追い風であるが、漠然とした不安を抱いて留学を断念する学生はいまだ少なくない。首都大では学内のキャリア支援課や外部就職支援団体との連携に基づき、年2回の「留学を活かす就職ガイダンス」を実施し、長・短期留学後のキャリア形成について広く全学への情報提供を行っている。すでに2に述べた「グローバルキャリア講座」と併せて、将来のキャリアパスにおいて自分の留学をどのように位置づけるのかを認識させ、留学への不安を払拭し、モチベーションをより高めるための試みである。

さらに帰国後研修の一環として、主として留学経験者を対象とした「就活支援実践講座」を開催している。就活における留学経験の効果的な自己PRや、エントリーシート の書き方などを少人数のワークショップ形式で学べる人気の講座となっている。

## 5. 短期留学から長期留学へ

国際センターにおいて、イギリス、アメリカ、カナダ、マレーシア等、研修先・内容ともに多彩な短期研修プログラムを展開しているのは既に述べたとおりであるが、まずこのような短期プログラムに参加して、自信を得てから交換留学に出願する学生も多い。2013年度春募集・秋募集合計36名の交換派遣留学応募者のうち、13名が何らかの短期研修の参加経験者であり、その割合は3割を超えた。この数字は2010年においては7名中0名、2011年は10名中2名、2012年は12名中4名であったが、短期研修や派遣先協定大学の拡大につれて今後もさらなる増加が見込まれる。

一方、交換留学の内定から実際の派遣までの期間を利用して、短期研修で語学力アップを図る学生もいる。こうしたニーズをふまえ、国際センターでは、長期派遣留学予定者を対象にして、学内での英語のブラッシュアップやアカデミックスキルの習得を目指したプログラムもスタートしている。また、短期研修の事後研修の一環としてIELTS学内受験を課しており、それが交換留学への出願を促進する効果にもつながっていると考えられる。

## 6. 今後の課題

首都大学東京の海外留学・研修促進プログラムは緒に就いたばかりであるが、本稿で紹介したように、国際センター管轄のプログラムだけを取ってみても、この数年で急速な進展を遂げている。首都大の学生気質として、以前は国内の公務員志望の学生が多いという傾向があったが、近年の海外留学相談室の来訪者には、国際公務員も含めて、将来国際社会で働きたい、研究したいと希望する学生が増加している。日本社会を挙げてのグローバル人材育成の動きの影響、また、ここ数年の国際センターを中心とした学生への働きかけの成果が如実に表れているとあってよいであろう。この機を捉えて、既存のプログラムのさらなる充実・拡大、また、学生からのニーズが高い中・長期インターンシッププログラムや新たな長期派遣留学制度の確立など、本学における海外留学促進によりいっそう真摯に取り組んでいきたいと考えている。